

対談市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
3 南伊勢町	対談項目1 地方創生について ①若者定住対策について	集団移転促進事業の要件緩和	<ul style="list-style-type: none"> ・若者の流出が厳しく、これにより地域の活力が低下している現状がある。 ・このため、産業振興への積極的な取組、就業機会の拡大に取り組むことで、UIJターン促進や若者定住を図り、地域の活性化の促進へ繋げる必要がある。 ・若者の町外転出の対策として、津波の来ない安全な家が必要であり、このため高台に住宅地を創る必要がある。 ・集団移転促進事業の規模要件は10戸以上であるが、高齢化が進み、人口が減ってきている南伊勢町には厳しい要件であるため、集団でなくても高台へ移転できる制度改正をお願いしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・9県の知事と共に10戸の規模要件緩和について国に要望を上げてきたが、認められていない状況である。 ・南伊勢町も一緒になって、地域の実情を伝えながら実現していきたい。
南伊勢町	対談項目1 地方創生について ①若者定住対策について	高台移転に関する水道等ライフラインにかかる財政支援制度	<ul style="list-style-type: none"> ・ライフラインにかかる財政支援制度の拡充をお願いしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・下水道耐震化事業は国の補助対象となっているのが、上水道耐震化事業は補助対象となっていないため、国に対し要望を行ってきたが、未だ認められていない状況である。 ・南伊勢町も一緒になって国に要望していきたい。
南伊勢町	対談項目1 地方創生について ①若者定住対策について	高台移転のための地方債制度の創設	<ul style="list-style-type: none"> ・40~50年といった償還期限の長い地方債制度の創設をお願いしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・償還期限の延長等地方創生を総合的に支援する地方債の創設について、全国知事会等の場で国に要望していきたい。
南伊勢町	対談項目1 地方創生について ②地域を担う人勢の育成(児童・生徒の学力の向上)	少人数授業を行うための加配教員の増員	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、町で小学校3校に11人、中学校2校に5人の教育支援員を配置している。小規模校であっても学力を向上させていくことが大事と考えている。 ・平成26年4月の学校統合により配置されていた加配教員が来年4月にはなくなってしまうため、生徒の学力向上に向け、教員の増員をお願いしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の加配については、人件費がかさむが、ティーム・ティーチングや習熟度別指導等学力向上への効果が期待できることから、財源の確保に努めていきたい。
南伊勢町	対談項目1 地方創生について ②地域を担う人勢の育成(児童・生徒の学力の向上)	思考力・判断力・表現力を身につける授業を行うための教員研修の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・町では小中学校の連携を進め、教員同士が参観しあったり、9年間を通じた教育を始めている。 ・習熟度別に授業するなど、先生方が様々な工夫をすることで、学力の向上につながっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校の連携は、全国的に学力の高い福井県や秋田県でも取り組んでいる。ぜひ、地域の皆さんも応援していただきたい。 ・全国学力・学習状況調査で、南伊勢町は結果が出る前に教員による自己採点や分析をして、次に繋げる取組をしている。この結果、南伊勢町の学力向上に繋がっている。

対談市町名	対談項目	各市町長の主な発言内容	知事の発言内容	
南伊勢町	対談項目2 地域強靱化について ①南海トラフ巨大地震にかかる防災対策について	木造住宅耐震補強工事補助金の補助額の増額	<ul style="list-style-type: none"> ・平成26年度は、耐震診断を受けた住宅の20%が耐震工事を行っており、県平均の9.68%の2倍以上の実績であり、防災意識が高い状況である。 ・しかし一方で、高齢者宅では工事には至っていない状況であるため、高齢者宅にも補強工事を進めていくためにも、補助金の増額をお願いしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・県は30万円の上乗せを行っているところであるが、財政状況が厳しい中、更なる増額は難しい。 ・来年度、耐震化促進計画を作り直す中で、どのように取り組んでいけばいいか、考えていきたい。
南伊勢町	対談項目2 地域強靱化について ①南海トラフ巨大地震にかかる防災対策について	広域救急援助隊等の待機スペースへの進入路の改良	<ul style="list-style-type: none"> ・広域救急援助隊の待機スペースとして総合グラウンドを検討しているが、進入路が狭く、大型車両が進入できないため、進入路の改良について、財政支援をお願いしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進入路の補助については、「都市防災総合推進事業」が対象になる場合があるので、具体的に相談していきたい。 ・しかしながら、この「都市防災総合推進事業」は総額が減っているうえに全国からの要望が増加していることから、総額を増額するよう国に要望していきたい。
南伊勢町	対談項目2 地域強靱化について ②国道260号の整備について	国道260号(東宮～河内間)の早期改良	<ul style="list-style-type: none"> ・水産物の運搬にあたり、奈屋浦漁港から紀勢大内山ICまでの間の国道260号には三つ坂峠があり、大型車の対向が困難であるため、早期の改良をお願いしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・三つ坂峠については、現道が一次改良済みであることから、抜本的な改良は難しいが、特に幅員が狭く急カーブが多い区間について、今年度公図調査、権利調査を実施して、部分的な改良について検討していきたい。 ・260号については、木谷バイパスと木谷拡幅の2工区を今年度供用開始予定としている。
南伊勢町	対談項目3 伊勢志摩サミットについて	サミット関連行事等への食材の提供	<ul style="list-style-type: none"> ・町では、「伊勢志摩サミット南伊勢町プロジェクト委員会」を立ち上げた。 ・今後、プログラムの誘致や食材提供等を考えていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・県営サンアリーナにメディアセンターを設置するが、その中に「三重県情報館」を設置し、そこに食材スペースを設けたいと思っているので、その提案方法について、後日お伝えしていきたい。 ・また配偶者プログラム、Jサミットについても、ご提案していただけるしくみを作りたい。 ・今年の秋から海外メディアのプレスツアーを始めるが、南伊勢町にも訪れていただきたいと思っている。
南伊勢町	対談項目3 伊勢志摩サミットについて	公式プログラム(配偶者プログラム等)の誘致		